アイデム 人と仕事研究所 **2018年卒就職・採用活動に関する調査** -総括―

2018就活は 「働きやすさ」を重視する ホワイト就活時代へ

<学生>の状況

- ◆前年よりも企業への応募は少ないものの、面接・内定社数は前年並
- ◆内定獲得者のうち、54.2%が選考解禁前に"最初の"内定を獲得
- ◆「働きやすさ」を重視する学生が増加 賃金・自己成長と引き換えに休日の多さを選ぶ学生は半数以上
- ◆キャリアセンター利用率は7割 要望は「相談のしやすい環境づくり」

<企業>の状況

- ◆10月時点で「採用活動終了」企業は2割未満 前年から大幅減
- ◆インターンシップ実施企業は増加し、目的は「選考の一環」へ
- ◆キャリアセンターへの要望は 学生の"社会人としての心構え"や"企業選びの視野拡大"の指導

2018年卒学生の採用活動は、ここ数年続いていた広報活動や選考活動の解禁時期の変更がなく、 久々に"前年通り"の活動ができる年となりました。企業と学生のどちらも、2017年卒と同様に早 い動き出しとなり、"早期化"傾向は続いています。2018年卒学生の就職活動状況を見ると、前年 よりも応募社数は少ないものの、面接企業数や内定獲得社数、内定獲得率は遜色なく、少ない活 度量で前年並みの成果を得ていました。

さらに、昨今の労働問題の影響か、学生の就労感にも変化が見られます。「給与」「仕事内容」「働きやすさ」の3者の中では、「働きやすさ」が最も重視されており、その割合も年々高まる傾向にありました。また、仕事に対しても、"一生同じ会社""出世にはこだわらない""賃金・自己成長よりも、残業が少ない・休日が多い仕事"など、安定や時間的・精神的なゆとりを求める姿勢が垣間見えました。ブラックならぬホワイトな企業・仕事であることが、学生の企業選びにおいて重要ポイントとなってきているようです。

株式会社アイデム

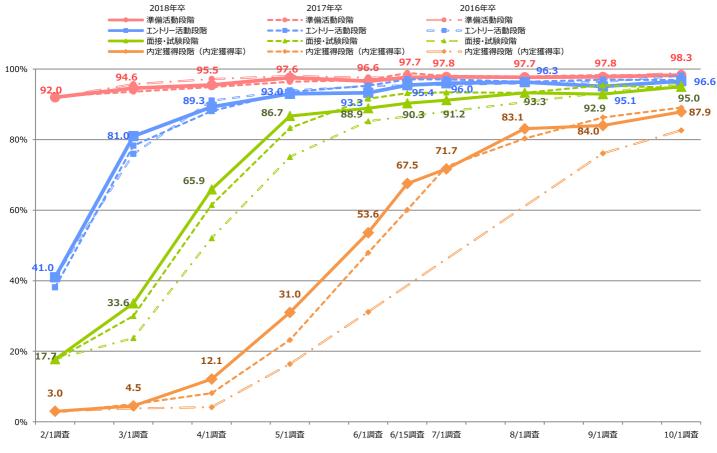
- ◆広報担当/望月・栗木 tel 03-5269-8780
- ◆調査担当/岸川・古橋

https://apj.aidem.co.jp

2017年卒学生よりもさらに早く進む就職活動 前年よりもスムーズに選考を通過し、選考解禁1ヵ月で早くも就職活動終了モードに

2018年卒学生の就職活動は、5~6月の選考解禁前後まで前年よりも早い活動進捗であった。「エントリー活動段階」到達者の割合は前年と大きな差はないが、「面接・試験段階」「内定獲得段階」到達者は、前年より速いペースで増えていき、「内定獲得率」は選考解禁の6月1日時点で53.6%と半数を超えた。6月15日調査以降は、前年と同程度の進捗状況に落ち着いている(図1)。





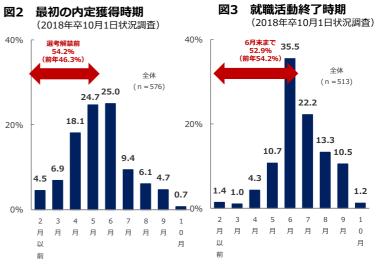
2018年卒学生の10月1日時点の応募・選考状況を見ると、応募企業数は前年よりも平均約5社少なかったにもかかわらず、面接選考企業数、内定獲得社数はそれぞれ1.7社減、増減なしに留まっている。例年以上に、少ない応募で面接・内定まで至っており、効率の良い就職活動だったことがうかがえる(表1)。

また、2018年卒学生の内定獲得の時期も早まっている。内定獲得者に最初の内定を獲得した時期を聞くと、選考解禁の6月よりも前の時期に既に内定を獲得していた学生が、54.2%に上った。前年が46.3%だったことを踏まえると、企業側が内定を出しを早めていることがうかがえる(図2)。

就職活動の終了時期は、6月に集中しており、選考解禁から1ヵ月で終了モードとなった。しかし、前年と比較すると、この時期までに就職活動を終了させた学生の割合は52.9%と、前年よりも1.3ポイント低い。2017年卒学生と比べ、比較的順調な進捗だった2018年卒学生は、内定を獲得した後も、"もっと良い企業があるのではないか"と、就職活動を続けていたようだ(図3)。

表1 選考参加業数と内定獲得社数 (平均)

10/1状況調査	2018年卒	2017年卒
応募企業数	22.2 社	27.1 社
面接選考企業数	11.8 社	13.5 社
内定獲得社数	2.3 社	2.3 社



就職活動に「後悔・反省あり」が8割 準備不足が大きな要因に

就職活動での反省・後悔がある学生は76.7% (図4)。具体的な内容を聞くと、「面接対策が 不十分|「自己分析が不十分|「企業・業界研究 が不十分」がトップ3となり、前年同様に準備・ 対策不足が上位に挙がる(図5)。広報解禁から 選考解禁までの短期間のうちにやらなければなら ない過程が多くあり、十分に時間が取れない様子 がうかがえる。とは言え、自身の適性や応募企業 への理解不足は、入社後のミスマッチにもつなが りかねず、しっかりと取り組む必要がある。

図4 就職活動での反省・後悔 (2018年卒10月1日状況調査)

全体 (n = 644)ない 23.3 % ある 76.7 %

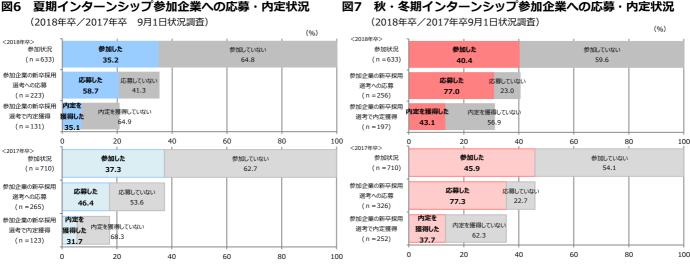
図5 就職活動での反省・後悔の内容

(2018年卒10月1日状況調査) <複数回答> ※上位5項目を抜粋 ■2018年卒 (n = 494) ■2017年卒 (n = 520) **42.1** 43.3 50% **38.1** 37.4 ^{38.3} 40% 30.4 ^{26.9} **22.5** 30% 20% 10% 不面 不 企 題自 十 接 + 2 十業 材己 期職 分 対 分分 分・ がP が活 っが っが っ界 なに かを た 研 か活 っ始 究 ため t- ++ る

高まるインターンシップの存在感 参加者の多くが採用選考へも応募

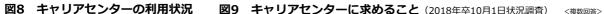
大学3年次(大学院生は1年次)に夏期インターンシップに「参加した」学生は35.2%(前年37.3%)、秋期・ 冬期インターンシップに参加した学生は40.4%(同45.9%)と、4割に上る。インターンシップは就職活動対策と して定着しつつあり、参加した企業の新卒採用選考へは、夏期参加者の58.7%、秋期・冬期参加者の77.0%が応募 をしていた。企業との早期接点は、応募意欲の醸成に影響しているようだ(図6、図7)。

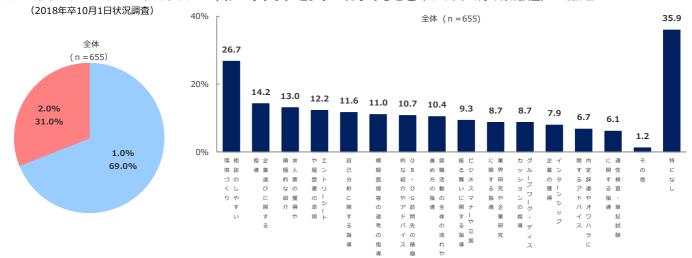
図6 夏期インターンシップ参加企業への応募・内定状況



学生のキャリアセンターへの要望は「相談のしやすい環境づくり」

大学のキャリアセンターを「利用したことがある」学生は69.0%と7割に上る(図8)。また、キャリアセン ターに求めることを聞くと、「特になし」を除いて、「相談のしやすい環境づくり」が26.7%でトップとなっ た。次いで「企業選びに関する指導」「求人票の獲得や積極的な紹介」「エントリーシートや履歴書の添削」が 上位となっている(図9)。





10月時点で「採用活動終了」企業は18.7% 前年から12.2ポイント減少

10月1日時点で、2018年卒の新卒採用活動を「既に終了している」企業は18.7%だった。前年の30.9%と比較するとやや遅めの進捗となっている(図10)。進捗状況は従業員規模によって差が大きく、「99人以下」の規模の企業では「まだ何も行なっていない」企業が4割に上る(図11)。

図10 2018年卒新卒採用活動の進捗状況

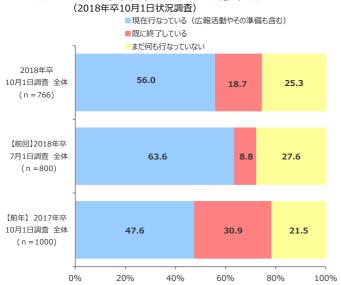
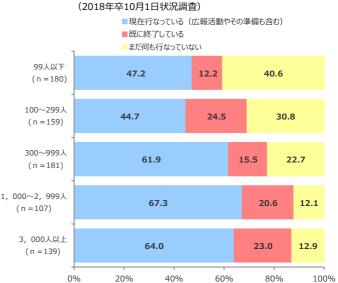


図11 2018年卒新卒採用活動の進捗状況 <従業員規模別>



インターンシップ実施企業は増加傾向 位置づけは「選考の一環」が最多

インターンシップを取り入れる企業は増加傾向にある。夏期インターンシップは、毎年4割前後の実施率で安定しているが、秋期または冬期インターンシップを実施している企業の割合は年々増加している(図12)。

また、インターンシップ実施企業では、約5割の企業がその位置づけを「選考の一環」としていた(図13~15)。

※図12~15

: インターンシップについては、2016年卒調査は「直近3年間に実施したもの」、2017年卒調査と2018年卒調査は「それぞれの年次の学生を対象に実施したもの」について聴取。

図12 インターンシップ実施状況 (2016~2018年卒 10月1日状況調査)

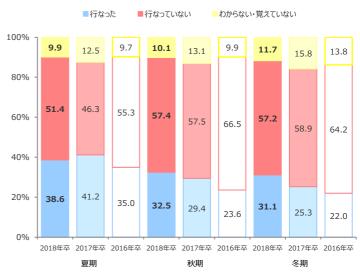


図13 インターンシップの位置づけ / 夏期

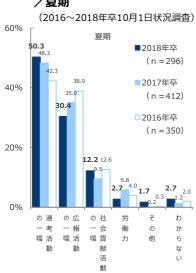
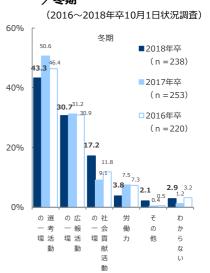


図14 インターンシップの位置づけ /秋期



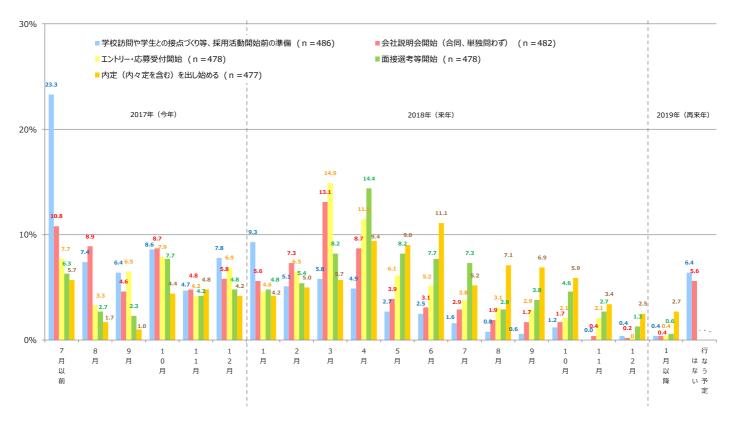
図15 インターンシップの位置づけ /冬期



2019年卒はすでに始動 45.7%の企業が本年10月までに接点づくり開始

企業に、2019年卒学生の新卒採用活動のスケジュールを聞いた。「学校訪問や学生との接点づくり等、採用活動開始前の準備」は、「2017年7月以前」が23.3%で最も多く、2017年10月末までに45.7%の企業が取り組んでいる。「内定(内々定を含む)を出し始める」時期は「2018年6月」が11.1%で最多だが、その前の「2018年4月」「2018年5月」も高い値となっており、今年と同様、早い時期から内定(内々定)を出していくようだ(図16)。

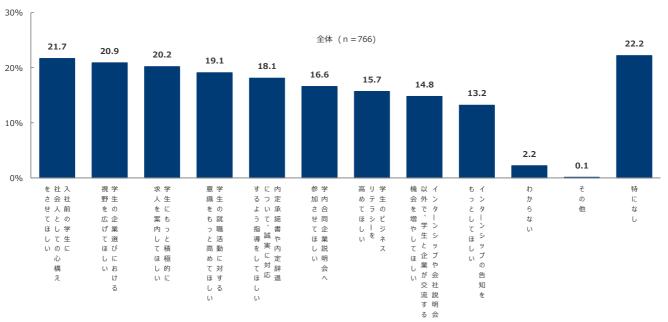
図16 2019年卒 新卒採用活動スケジュール (2018年卒10月1日状況調査) ※時期不明の回答者除く



<u>キャリアセンターには、学生の「社会人としての心構え」「企業選びの視野拡大」を要望</u>

企業に、新卒採用において"大学のキャリアセンター"に求めることを聞くと、「特になし」を除いて「入社前の学生に社会人としての心構えをさせてほしい」が21.7%で最多となった。上位には、他に「学生の企業選びおける視野を広げてほしい」「学生にもっと積極的に求人を案内してほしい」等が挙がっている(図17)。

図17 企業が大学のキャリアセンターに求めること (2018年卒10月1日状況調査) <複数回答>



「働きやすさ」重視傾向強まる 企業選びの視点には"ホワイトさ"

2018年卒学生の志向について見ると、"一生同じ会社で働く" "給料・ステイタス・自己成長よりも、残業が少なく休日が多い仕事" "早い帰宅時間"等、安定しゆとりのある社会人生活を希望する学生が多数派となっている(図18)。

実際に、学生に働く上で大切にしたいことを「給与の高さ」「仕事の内容」「働きやすさ」から選んでもらうと、「働きやすさ」が最多となっており、社会風潮の影響か、「働きやすさ」を重視する学生は年々増加傾向にある(図19)。

"働きやすさ"を具体的に見ると、「社内の人間関係や風通しが良いこと」「年間休日数が多いこと」「経営が安定していること」「残業時間が少ないこと」など、社内の雰囲気や労働条件に関することが上位に挙がった(図20)。また、若者雇用促進法により企業に情報提供が義務付けられた項目についても、情報を求める姿勢が感じられ、"働きやすさ"や"(ブラック企業ではない)ホワイトさ"が企業選びの際の重要ポイントになっているようだ(図21)。

図18 学生の志向 (2018年卒10月1日状況調査)

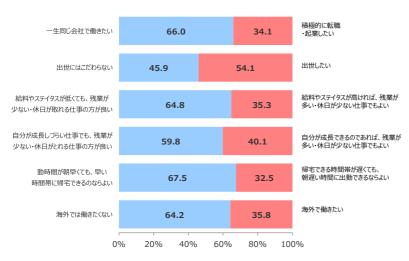


図19 働く上で大切にしたいこと (時系列)



図20 「働きやすさ」に関する内容で重視したもの

(2018年卒10月1日状況調査) <複数回答>

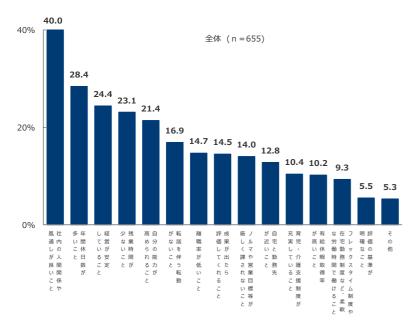
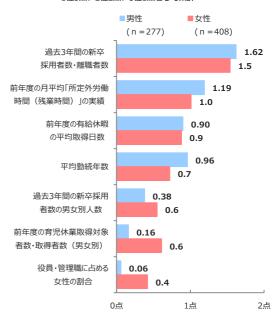


図21 企業に公表してほしい情報

(2018年卒3月1日状況調査) ※上位3位までを回答してもらい、 1位3点、2位2点、3位1点として集計



◆2018年卒就職・採用活動の調査詳細 >>>「アイデム人と仕事研究所」 https://apj.aidem.co.jp 2018年3月卒業学生の就職活動状況、企業の採用活動状況の詳細は、「アイデム人と仕事研究所」のWEBサイトからご覧いただけます。最新の10月1日状況調査の詳細は、10月下旬(企業調査)と11月初旬(学生調査)に発表予定です。